会　議　記　録

令和５年３月 13 日

●会 議 名　　令和４年度　第４回丹波市社会教育委員の会議

●日　　時　　令和５年２月 10 日（金）14：00～16：20

●場　　所　　柏原住民センター　会議室 A

●内　　容

１　開会

２　あいさつ

・検索すると、AI で様々なことを教えてくれる「チャット GPT」というものがあり総論的な「大枠」について AI が答えてくれる時代になった。

・社会教育委員がなぜ丹波市から「委嘱」されてこの会に集まってきているのか？それは、AI のように、「大枠」をしゃべるだけではない会議だからだと考えている。

・私たち一人ひとりには丹波市のたくさんの方々とのつながりがある。丹波市において、どんな現状があってどんな課題があるのかを話し合えるのは、丹波市で「つながり」を持っている私たちにしかできないことである。

・国の中央教育審議会でも、これからの社会教育において「ひらかれたつながる社会教育」というキャッチフレーズで議論されている。

・本日、教育委員会 LINE ユーザーに向けてアンケートが行われていたが、こういった市の SNS を通じて、社会教育委員の会議の研究テーマについての皆さんの意見を発信していくことも、考えられたらありがたい。

３　報告事項

（１）社会教育関連会議及び各委員からご報告

１）　丹波アートコンペティション実行委員

※欠席のため、報告なし。

２）　丹波市立文化ホール事業推進会議委員より報告

・文化・芸術活動の盛んな地域は、地域力の向上や成長につながると同時に教育の面でも等しく向上するといわれている。そのためにも、老若男女を問わず、市民の方々が参加しやすい興味関心の糸口や、皆さんに興味を抱いていただけるような文化芸術の内容について意見を出し合いながら進めてきた。

・コロナでなかなか人々の関わりがしにくく、文化芸術を推進するということも頭打ちになっている時代だが、子どもから大人まで文化芸術に触れる機会を高めるための審議をしている。自分も勉強しながら、いろんな芸術、文化に触れていきたいと考えている。

３）　丹波市立隣保館等運営委員会委員より報告

・隣保館の運営に関する事業計画及び実施に関することを審議している。今までの人権問題の課題を見直し、新たに「インターネットによる人権侵害」「性的マイノリティの人権」が加わり、その計画と施策を担っておられる部署と話をしながら進めている。

・３館ある隣保館では主に相談業務を担っている。昨年、氷上文化センターでは、15 件中 13 件が生活相談であった。あと、福祉相談、人権相談もある。七日市会館でも１件あった。出張相談業務として、青垣住民センターで 2 件、柏原住民センターで１件という状況である。

・「人権啓発標語展」では人権について幅広く啓発するために、ゆめタウンのゆめ広場で展示をした。人権歴史講座やフィールドワーク、人権セミナーや各講座も積極的に取り入れていただき広く人権問題解決に向けて市民に啓発していただいている。

・地域交流事業として、館を利用して植木の剪定教室や料理教室も開催した。今年度は多文化交流ということでキムチ教室を開催した。

・貸館業務もあり、市民の方々に有効利用されている。

・学校に行きにくい子どもたちの学習支援の教室もあり、丹波市から PR の効果もあり、利用者が増えている。

・隣保館の活動は、幅広い内容に触れている。委員会の意見を丹波市に取り入れてもらいながら、大変有意義な会議になっている。

・人権セミナーにぜひ出席いただき、幅広い人権の問題について学びを深めていただきたい。少しでも住みやすい丹波市になるように、一人ひとりが学んでいかないといけない。

４）　丹波市まなびの里づくり協議会委員より報告

・まなびの里づくり協議会は、生涯学習活動に伴う団体等の事業の総合的な調整や、生涯学習活動に対する各種提言、活動計画等の推進や普及に関すること、また普及に関する目標達成に向けての必要な事項を協議する場として設置されている。本日ご出席の社会教育委員からも同じ委員として出席しているので、後ほど話を伺いたい。

・平成 27 年度からスタートしている生涯学習基本計画があり、後期計画が令和６年までの計画となっているが、最近数年間というのは、コロナの影響もあったが協議会の開催が十分できていない状態である。

・今年度については、10 月に第１回協議会が開催され、座長の話を聞いた。市の事業の進捗状況等に意見を出すということも委員の仕事の一つだが、会議自体が十分できていない。丹波市の生涯学習をどうして

いくのかという話をもっとしていかないといけないが、まだ協議に至っていない現状であり、大変悲しい思いをしている。
・当初、丹波市の生涯学習基本計画を作ったときに、「丹波市民が作った計画として素晴らしいものができましたね。」と座長にも言っていただいた。そこには、多くの話し合いの積み重ねがあったが、そのあとそれが置き去りにされているということが、とても悲しい。あとで市民活動課長もからも話を聞きたいと思っている。

（委員）
・私も、平成 27 年の生涯学習基本計画 10 年計画を策定するにあたって審議をしてきた身で、後期計画の時もその場で審議させていただいた。
・丹波市では知識循環型の生涯学習の推進ということで、自ら学んだ人たちがその力をいかに丹波市の里（まち）に還元することができるかということを重要視している。学びの循環をしながら持続可能なまちづくりにつなげていくというのが一番のビジョンでもあり、我々がすべきミッションではないかというところで共有して、推進するのが協議会である。
・しかし、なかなか会議が開かれていない現状と、ではどうやってそれを進めていけば良いのかというところで、ここ数年暗礁に乗り上げているような雰囲気が会議の中にある。
・この社会教育委員の会議の中でも度々テーマに上がってきている、学校と地域の連携・協働と同様に、家庭とのつながりも含めた、「学校、家庭、地域の連携・協働」の共通理念を持ち、立場を隔てたところも含めて、市民総がかりでまちづくりをしていくというのが生涯学習の中でも大事になってきていると考える。
・これからの社会を作っていくための重要な手段として、地域学校協働活動の概念があるという話が、まなびの里づくり協議会場でもしっかりと協議されている。その概念を全市に広げていくためにはどのような形をとっていけばよいのかというところで足踏み状態でなかなか進んでいない状況にあることを感じている。

≪担当課長より補足説明≫
●文化・スポーツ課長より
（丹波市立文化ホール事業推進会議・丹波アートコンペティション実行委員会担当課）
・1 月 31 日に開催された丹波市立文化ホール事業推進会議について、ご報告のとおり、今年度の事業の報告等、子どもさんからご高齢の方まで、文化に親しんでいただくためにはどのような催し物をしていったらいいのかということと、協議事項の中では、文化ホールの運営について今後提案をさせていただき、その方向性についてご意見をいただいた。

・近日、第４回の丹波市アートコンペティションが開催される。展示の方法であるとか、審査の内容、来年度開催内容について、協議をいただいた。合わせて、令和 5 年度のアートコンペティションについて市民の方にもっと文化芸術に親しんでいただく方法と、市民参加型のアートコンペティションになるように意見をいただいて、チラシの内容や、審査員の人選等々についてご協議を頂いた。

●人権啓発センター所長より
（丹波市立隣保館等運営委員会担当課）

・ご報告いただきましたように、市内に３館ある隣保館では社会福祉の向上と人権啓発の面で住民が交流する場として、館の運営と事業を行っている。３館という限られた場所ではありながら、全市に開かれた取組や啓発に取り組んでいる。
・同和問題、部落差別を中心として様々な人権課題について意見交換を行っている。また、ご意見をいただきながら館の運営については、しっかりと取り組んでいきたいと考えている。

●市民活動課長より
（丹波市まなびの里づくり協議会担当課長）

・平成 26 年度から生涯学習基本計画を策定させていただいた時に、生涯学習係長として、３年間生涯学習の担当をしていた。生涯学習基本計画については、理念的な話が非常に多い計画で、具体的にどの部署が、何を、どうするということが細かく書かれた実行計画ではなかったので、計画策定後に、「実行計画」を作っていかなくてはいけなかった。
・当時、関連部署に対して、実施している生涯学習関連事業について全て洗い出す調査をした。その一つ一つの事業について、細かい数値目標は出さないことにした。それは事務事業評価など、各部署における評価の仕方があるので、それを、まなびの里協議会の方であえて評価をすることはないと考えたため、そういう進め方をさせていただいた。
・市の庁舎の中の生涯学習活動については、ある程度のことは把握できるが、理念的な話として、例えば企業ではどうしているのか、地域の生涯学習活動の現状等を追いかけるのは大変難しかった。その状態で、まなびの里づくり協議会の方でどう審議を深めていったら良いのかというところでは本当に悩んでばかりだった。
・今年度、係長がハード的な生涯学習施設の整備や修繕も含めて市民活動課で担当するようになり、事務的になかなか人が十分にいない状況となり、私がこのまなびの里づくり協議会については、事務的に関わらせていただくようになった。
・先ほど委員も言われたように、まなびの里づくり協議会では、やはり、地域学校協働事業ということが大きなテーマであり、また議長が言われた中教審の今年度の方針の中では地域学校協働事業の他に、「地域

づくりを支える社会教育」というのが今後の大きな柱としてある。丹波市の場合は、社会教育法上設置された公民館がないので、市民の社会教育、あるいは生涯学習の活動を支えていく地道な活動が非常にやりにくい市であるということを私は感じている。

・今の体制的な事で言うと、小学校区ごとに設置された自治協議会で社会教育の視点を持った人材を育成をする「担い手づくり」が必要だと考えている。市民活動課は、「地域づくり」と「市民活動」と「生涯学習」の３つを主管しているので、地域づくりに直接つながる社会教育の推進と生涯学習の考え方の整理をするために、今年度１回目のまなびの里づくり協議会では、課題提起をさせていただいた。

・令和５年３月に開催する分と来年度の中盤までには２回程度協議の場を設けさせていただく予定。地域における社会教育をどう推進するのかということの議論をしっかり踏まえた上で、令和６年度からの新たな体制について整理をしたい。

・生涯学習は大変幅広い活動であり、一度に議論することができない。しかし、サラッと表面だけやっても仕方がないと改めて考えている。この件に関しては、地域の中で社会教育がしっかりと浸透しているかどうか、そこでどういう人が育っているのかということを、いろんな話を聞きながら一定整理をしていく作業をやっていきたいと感じている。

５） 各社会教育委員より活動報告　　（全委員）

（委員）

・里山環境の保全として、春日総合運動公園のレジャープールの北側にある、ため池の水を抜いて「ため池のかいぼり」を行った。コロナ禍の最中だったので、あまり大きく PR はしなかったが、地域の自治会を含め、レジャープールに遊びに来ていた地区外の子どもたちにも参加を促し、胸まで泥の中に浸かりながら 80 センチ～90 センチ級の鯉をつかみ取ったりした。子どもたちに鯉などの魚のつかみ取りをしてもらった。

・取れた後の魚の分布については、青垣いきものふれあいの里から講師を招き話を伺い、幸いにも外来魚がいないため池であることも分かった。

・ため池ののり面には芝桜を地域で植えて植栽管理を繰り返しながら里山環境を作っていく活動をしている。

・里山の森の整備を行った。地元で、里山保全の会を立ち上げ、月に３回ぐらい、災害に強く、環境に配慮した森の整備をしている。この自治会は「30 年後の丹波のモデルになる森づくり」の３年前に県民局から指定を受けている。関連事業として大路の未来会議がやっている「大路子どもの森」の運営チームにも入っているので、昨年 12 月に

はしめ縄づくりに、本職ではないが、「なんちゃってしめ縄職人」として子どもたちに作り方を教えたりもした。

（委員）

・社会教育委員の初心者としてこの場に来させていただくことによって、美術館や図書館、文化ホールなどの様々な施設のご案内をたくさんいただき、イベントや公演など文化芸術活動への意識が高まった。自分も参加できる時には参加している。職場である子ども園にも多くのご案内をいただいているので、地域の親子を対象に子育て支援をする中で、イベント参加等の機会を逃されないように保護者に声掛けをして案内することに力を入れている。

（委員）

・社会教育として始めたわけではないが、地域の歴史を研究する中で自分が研究するだけでなく、地域にフィードバックすることが大事だなと考えている。
・中身は難しくても分かりやすく映像とかカラー資料で伝える活動をしてきた。
・社会教育としてどういうふうに昇華していくか、それを組織立ててやっていくかというのがひとつの課題であり、市には自治協議会単位での実体調査をぜひやっていただきたい。
・「１年を通じての講座をやってほしい」という依頼は、自治協議会単位での依頼が多いので、市は、まずはその地域で、どういうものをやっているのか調査をすることが必要だと思う。
・社会教育・文化財課にも話をしているが、現在、市内にいくつ古文書の会があるのか把握しきれていないので、来年度は、どれぐらいのものがあって、どういう規模でやっているのかというのをリストアップして大学側と私たちと、教育委員会が共有しようというところから始める予定である。リストの共有の手法は生涯学習でも文化芸術でも同じだと思う。殊更に社会教育と打ち出していなくても、地域でそういう良質なサークル的なことを長い間地道に活動を続けている人がたくさんおられるが、なかなかその方たちの具体像が浮かび上がってこない。その実態把握は大きな課題だと思う。今までは頼まれたら講座などを受けていたが、今後はその地域ですでに活動されている方と連携するといった形でさらに有機的に取り組んでいけたらと考えている。

（委員）

・地元の南小学校と関わり始めたのは、地域学校協働活動推進員になる前の令和２年からである。コーディネーターとして学校に「困りごとはないか」と尋ねていった時に、先生方が私とどう関わったらいいのか、か

なり戸惑う様子が見られたことがきっかけで、当時の教頭先生の発案で、まずは学校職員とコーディネーターとのコミュニケーションを図るために、放課後１時間くらい、先生方とお茶を飲みながら座談をした。令和２年１～２月で６回はしていたが、コロナでパッタリなくなってしまっていた。

・人間は、知り合わないと「本音でしゃべれない」。それがカフェの場の目的だった。

・持ち寄りのコーヒーとお菓子で和気あいあいとした雰囲気の中で、自分の困りごとも話せて共有できるということで、今回、先生方のニーズで「またやってほしい」というリクエストがあり、令和４年１月から再開した。

・この３年間、コロナで時間が止まってしまって、つながりも停滞したが、現状を省みて、復活できるものは復活していけたらと思う。中には加速度的に進められることもあれば、ゆっくりと進められることもあるので、「今」を見ながら判断して推進していけたらいい思っている。

・私は、１つの社会教育活動に特化して身を置いてはいないのが、社会に携わる身としては、場を作ったり人をつなげたりの一役を担っている。

(委員(欠席)のメッセージ)

・丹波市氷上町を中心に、小学生対象のミニバスケットボールの指導者や丹波市と丹波篠山市の障がい者スポーツ指導員として、定期的に指導者の育成や障がいのある方の大会等を企画・運営しています。

・また、車椅子バスケットボール（近畿ブロックの公式審判員として活動し大会のサポートもしています。

・そういった立場から小中学生に障がい者のサポートに興味を持つ人（児童・生徒）を『育てる・働きかけ』も私の役割だと考えています。

・仕事をしながらの活動なので、殆ど活動が土日に集中し、なかなか時間調整が困難ですが、少しずつ保護者や家族等の協力を得ながら、健常者を巻き込んで障がいのある子どもや人に楽しいと感じられる時間を共有し一人ひとりの個性に合った支援ができるようになりたいと思っています。

(委員)

・社会体育分野で、３Ｂ体操の指導をしている。社会教育委員になった時に前の議長から、指導者を養成しないと活動が広がらないとうことを教えていただき、活動の裾野を広げるために指導者育成についても取り組んでいる。

・障がい者の方々への活動も取り組んでいるが、コロナ禍で外部指導者は入れないという状況だったが、幸いにして、その障がい者施設に勤務されている職員の方に指導者の資格を取ってもらえたことで、引き続き楽しんで体操に取り組んでもらえて良かった。

・今まで、市が主催で健康づくりのイベントをされていたことがコロナで

中止となり、目に見えて高齢者の体力が落ちたり、引きこもりや認知症も進んでいる人が多い。
・いきいきサロンとのつながる機会を得て継続して行けることになった。やはりこの「集える場」は心身の健康に大変重要だと感じた。
・社会福祉協議会とのつながりもできたので、いきいきサロンのリーダー研修会にも行くことが決まった。今後も自分の活動が役に立てたらと思う。
・「言霊（ことだま）」という言葉がある。自分の前向きな願いを周囲の人たちに、「〇〇したい」と言い続けることで、誰かが聞いていて縁がつながり、実現に一歩ずつ近づいているのを感じている。

（委員）
・３年前のコロナから、演奏の仕事や音楽療法士としての活動が全くできなくなった。
・コロナ禍の中、認知症の方々、障がい者の方々が、取り残される現実があった。これまで関わってきた対象者さんとの交流が全くなくなり、その結果、この３年で人生が変わってしまった形で再会した人もいる。社会とのつながりがなくなってしまうことで命まで蝕まれてしまう恐ろしさを感じている。これから少しずつでも、取り戻せたら…と思っている。
・コロナ前のように音楽療法や笑いヨガなどで多くの方々とのふれあいを復活させ、活動再開を待ち望んでいる。
・「ゆりかごから墓場まで」の思いで活動を展開している。

４　協議事項

（１）全体討議

「地域学校協働活動における大人の学びについて」の振り返り
～第３回丹波市社会教育委員の会議　ワークシートまとめより～

①地域学校協働活動に必要なこと
・「地域」「学校」「行政」のパートナーシップを構築する
→「協議」を理解しているか？
→それぞれのビジョンがあるか？地域に合った体制づくりができているか？
※例えば、運動会の前の草刈りや草引きについて、地域が手を出したくても出せない状態になっていないか？教頭先生等、間を取り持つ人はいるかなど。

（委員）
・沼貫地区は自治振興会長が地区の窓口になっている。
・地域との窓口が必要である。それをするのが、地域学校協働活動推進員の仕

事だと考えている。
・一人ではできることが限られている。方向を指し示す存在が必要である。
・里山整備をすることが地域の将来につながるのであれば、その活動の先を指し示す人物が地域学校協働活動推進員である。
・関わる側のメリットがないと続かない。地域、学校双方のメリットのあるものを達成していく。

（委員）
・先人・先輩が地域のためにやってこられた活動を振り返ることで地域の環境や文化を「守ってきた」ということを子どもたちに伝える。
・継続性のある活動を展開できたらと思う。

（委員）
・例えば「運動会」も、学校行事だけではなくて地域も参加して、地域の活動のひとつとして開催できないものか。
・以前は、学校教育の中にあった「社会教育」をもう一度見直せたらと思う。運動会が教育活動の一環であることは理解しているが、「祭り」のごとく「人が集まる場」として、学校と地域を結びつける「場面」にできないか。
・「なんとなくみんなが同じ方向を向いている感覚」がある時間の共有。「あいまい」な方が良いこともある。
・「遠足」なども、地域の人に「この地域はね…」と語ってもらうのも良いのではないか。伝える側（地域の人）にとっても、「伝える場がある」ことが良い。

（委員）
・運動会の前に草がボウボウだったので見かねていると学校はシルバー人材センターに頼んで作業してもらっていた。そういう時に、地域の力が活用できないものか。
・不審者対策の強化で、学校に入りにくくなっているのを感じる。

（委員）
・自分自身を振り返ると、PTA 活動も親の方が楽しんで参加していた。学校へ不審者が侵入する事件があってから、不審者対策が厳しくなっているが、「良いもの」は復活させて、地域を育てることが大切だと思う。
・まずは簡単に取り組めることで、学校の敷居を低くする。
・以前は地域の人に、子どもたちを育ててもらった。日々の生活の中で、困った時や分からない事があった時、インターネット検索に何でも頼ってしまいがちだが、「人間として」どういう判断をするかなどは、人と話す、人と付き合うことで解決できることもある。
・議論は堅苦しくなるので普段の話の中で気軽に、思いを伝え合えたらと思う。

（委員）
・信頼関係をどう構築するかがポイントだと思う。

・key になる人がいてパートナーシップをつなぐことが大事である。
・つなげていくことを地道に丁寧に行っていく。
・地域づくりの中で、学校の中で話し合える「場をつくる」。
・そういうコーディネート能力が必要である。

（委員）
・集まる場所や、気軽に集える場所があってほしい。
・地域のつながり自体が薄くなっているから、よりそう感じる。

（委員）
・コミセンでの活動は大変重要になってくる。
・まずは一つでいいので「核」になるものをやってみる。そこから広がっていく。
・学校と、地域がお互いに「メニュー」を出し合う。出し合って実現していくことが大事である。
（委員）
・まずはお互いの「メニューづくり」をして出し合うところから始める。（リスト作り）

②今の丹波市ですぐやるべきこと
→地域学校協働を展開するために、優先順位はどうするか。何から手を付けていくか。

（委員）
・氷上町の中央地区ではゴスペルを地域、小学校校区内の住民で協力して、15 年間にわたり続けていた。コロナがきっかけで集う場面がなくなってしまったが、頑張りすぎて最後の方は主催者側が「疲れ」を感じるようになってきていた。中には、ゴスペルがなくなって、「楽になったね」、一方では「残念だね」、両方聞こえてくる。
・私の 27 歳になる娘は小学校の先生や地域の「オヤジの腕まくりの会」のみなさんと、一緒にお餅つきをしたり、出店をしたりした経験が本当に楽しかったと、大変良い思い出になっている。
・地域と学校の連携で人集めをしたり、人から人への口コミがとても大切だと思う。そこにはやはり、コーディネート力を発揮できる「人」が必要である。
・大切なことは、主催側も、協力者も「疲れないこと」だと思う。

(委員)
・リーダーの「牽引力」は必要。

③私たち委員は地域学校協働活動にどのように関わっていくのか。

（委員）

・先の発言にあった30年後の自分の住む地域について考えたとき、丹波市の推計よりも人口が減っている確率が高い。
・危機感を持って取り組まないといけないと考えている。
・課題が見えてきたときに、学校と地域が、「できない」ことを出し合うことで、「できること」が改めて見えてくる。
・できないなりに、「やる」ことで何かは進んでいく。それには、推進する人が必須である。
・丹波市の地域学校協働活動推進員を増やしていくことが急務。

（委員）
・今回の協議はここまでとしますが、本日欠席の方にも改めて意見をもらって、まとめていきたい。
・本日出席いただいた委員の皆さんにももう一度、まとめの文書≪提言（案）≫を見ていただく機会をつくりますので、追加意見がありましたらお知らせください。
・今後、まとめたものを、丹波市教育長に今年度の社会教育委員の活動や考えを≪提言≫として丹波市教育委員会教育長に提出する予定です。
・また、本日みなさんと協議した内容や、これまでの過程などを丹波市社会教育委員の取組みとして、先日、ワークシートのまとめと一緒に送付しておりました、2月19日の学びの里プロジェクトの「ふりかえり交流会」で発表させていただく。

5　その他

（1）　事務連絡等

〇オフ会について
・年4回の社会教育委員の会議の他に、ざっくばらんに話せるゆるやかな会として「オフ会」を計画している。まずはお声がけをしますが、出席義務はございません。まずは一度ご案内をさせていただきます。
・社会教育分野はとても広いので、ざっくばらんに様々なお話ができるといいなと思っている。

（委員）
・夜は出席しにくい。
・ある程度会議の日程を予め、一年を通して知りたい。
・例えば６・８・10・12月のだいたい第何週の何曜日であたりが分かるとありがたい。
・自分の出席する会議によっては、一年の予定が決まっているものがある。

(委員)
・社会教育委員の会議は、予め日程を決めにくい。随時日程調整をさせてい

ただきたい。

〇その他連絡事項

・文化・スポーツ課長から：ホールイベント情報について。
・社会教育・文化財課長から：各館のイベントや展示会のチラシや招待券のお知らせと、電子図書館の案内について。
・委員から。
→南小のコミスクオフ会の案内。ご案内可能な方はラインの交換をお願いしたい。

６　閉会のあいさつ

・今回はみなさんの活動内容の詳細や、経験上の話で貴重で良い会議だった。
・今日学ばれたことをもとに、また掘り下げて来年度につなげたい。